

MAGIC-P strategy

包括的栄養管理について

(シリーズ第6回 全6回)

栄養サポートチームでは本通信で勉強会の概要をお伝えし、より多くの方々に栄養管理について関心を持っていただきたいと思いますと考えております。

今回は、昨年7月より「MAGIC-P」をキーワードとした包括的栄養管理の最終回です。

理学療法士 木村忠彰先生より、Physical therapy (早期理学療法) 「ベッドレストによる身体の影響について」ご講義いただきました。

Physical therapy (早期理学療法)

ベッドレストにおける筋への影響

- 非加重(ベッドレスト)＝抗重力筋が萎縮
 抗重力筋⇒脊柱起立筋、大腿四頭筋、下腿三頭筋
- 抗重力筋は重力に抗した筋活動と密接な関係
 1週間安静 — 筋量が10%～15%減少
 3～5週間安静 — 筋量が50%減少



早期離床を！

ベッドレストによる代謝系への影響

糖代謝:

エネルギーとして人は糖の8割を骨格筋で消費している

非加重の状態では

骨格筋のGLUT4(筋内へ糖を届ける運び屋)の濃度低下により骨格筋の収縮が低下する



筋内への糖取り込み低下＝インスリンの感受性低下



耐糖能が低下(血糖値上昇)

MAGIC-Pシリーズ6回目

Physical therapy (早期理学療法) スライドより (一部改変)

包括的栄養管理が重要です。

栄養障害のもたらす結果として多種多様の機能障害、機能不全がみられ最終的には生体の死に至る場合があります。

栄養障害は単独の栄養素個々によって引き起こされる場合もありますが、多くの場合は種々の栄養素が複雑に相関しあって惹起されています。

まずは定期的な栄養評価、すなわち栄養スクリーニングから栄養障害のある患者を抽出しましょう。そして包括的(すべてをひっくるめた)栄養管理に、MAGIC-P戦略を活用してみたいかがででしょうか。

2月のNST勉強会は、
 2月18日(木)17時30分～ 第2臨床講堂です。(いつもと場所が異なります)
 今回は、MAGIC-Pでも話題としたGFO療法のトピックについて、
 ㈱大塚製薬工場 亀井氏よりご講義頂く予定です。

